



# 磁石で音変できる

音響調整できるイヤホンは数多くあるが、BQEYZ(ビーキューアイズ)ほど簡単にできるものは少ない！  
磁石でフィルター交換という画期的なアイデアを搭載したイヤホン「Autumn」の魅力を解説しよう。

文/高橋 敦 Atsushi Takahashi 写真/阿部良寛

## ノーマルの音は艶のあるナチュラル系

オーディオの製造を請け負ってきたファクトリーがそこで培った技術を活かして自社ブランドを立ち上げる。昨今よくあるストーリーだ。実際にそういったブランドからは、安定した製造技術を背景とした優秀な製品が数多く登場している。であるが、「安定」「優秀」といっただけでは「よくあるストーリーの新鋭ブランド」という群から抜け出すことはできない。その上に突出したクオリティや独自のアイデアも認められてこそブランドの価値は高まり、その存在感が確立されるのだ。

2018年設立のBQEYZが投入してきた新製品「Autumn」はまさにそういったポテンシャルを持ち、ブランドにとっての大きな力となり得るニューモデルだ。

チューニングパーツの交換による音質調整機構を搭載!とだけいわれても、「いやそれも『よくある』機能じゃん」という反応になるかもしれない。だがAutumnに搭載のチューニング機構は、中国にて特許取得済みの、これまでにない仕組みによるものだ。

既存のアコースティックなチューニング機構は、音の出口であるノズルに設けられている音響フィルターをノズルごと交換、あるいはノズルを外してその内部のフィルターを交換という手順が多い。ノズル部での調整は効果が確かな反面、イヤーチップの取り付け部分でもあるためにササッと交換というわけにはいかない。

対してAutumnに搭載されるのは、アルミ切削筐体内にて13mmダイナミック型ドライバーの前方に設けられている、フロントキャビティからの空気の抜き具合を調整するパーツの交換機構。それによって空気圧の制御を変更し、NORMAL/BASS/TREBLEの3つのチューニングを選択可能だ。イヤーチップの脱着も必要ない、パーツ固定はマグネット式。指先でも交換できるし、付属のマグネットスティックを使えばもっとササッと交換できる。さらにはそのマグネットにボイスコイルの磁力を補助する役割も兼ね備えさせてあるというから一石二鳥だ。

そしてそのチューニング機構を支えるのは、土台となる基本チューニングのフラットさ。NORMAL時には低域・中域・高域の帯域バランスも音の感触など音調もニュートラル。大口径ダイナミック型だからと

## カナル型イヤホン BQEYZ Autumn

¥OPEN ▶投票 No.000  
2022年9月中旬発売予定

SPEC ●型式:ダイナミック型 ●ドライバー口径:13mm ●再生周波数帯域:7~40,000Hz ●インピーダンス:46Ω ●ケーブルの長さ:約1.2m ●質量:約6g(ケーブル含まず) ●付属品:イヤーチップ(S/M/L各2セット)、音響調整用フィルター3種、フィルター着脱用ボール、キャリングケース ※プラグは4.4mmと2.5mmと3.5mmのいずれかを選択する仕様。

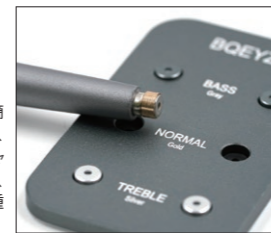


### Detail



13mmという大型の振動板を採用するが、その振幅量を確保するためにデュアルキャビティ構造を新規開発。振動板を背面の駆動用マグネットと磁石式の音響調整フィルターで挟み込むことで、強力な振幅を生み出している。

音響調整フィルターは磁石式なので簡単に着脱できる。磁力自体は同じだが、フィルターの種類が異なり、フロントキャビティの空気の流れを調整することで、低域より、高域より、ノーマルの3種の音が楽しめる。



### People



#### 磁石だからこそ調整が難しい

音響調整フィルターは磁石式ですので振動板の動きにも影響を及ぼします。そのため内部のドライバーの位置や距離を何度も修正したり、磁石のサイズやフィルターの種類も数多くのサンプルを制作したりして現在のデザインになりました。CNC切削加工したアルミ筐体も人間工学に基づいた形状としたことで、フィルターが装着性を損ねることもありません。(Luo氏)

James Luo氏  
Dongguan Xianchao  
Acoustics Technology  
研究・開発リーダー

キャリアのスタートは2002年。前職となるオーディオ機器のOEM会社で数多くの製品開発に携わり、イヤホンやヘッドホンの開発実績も多数あるエンジニア。BQEYZの立ち上げと同時に参加し、圧電セラミックや磁石式音響調整フィルターなど同社のユニークな製品づくりを牽引する。

# 超個性派イヤホン

いって低音をやたら主張することもない。ベースやバスドラムがぐいぐい目立つことはなく、控えめでありつつ明瞭な存在感という描き出し方は特に見事。おかげで相対的にボーカルが半歩前に出てきてくれる。これを土台に、そこからBASSに変更すればクラブ系サウンドのローエンドからサブベースにかけての空気を揺るがす低音の響きが豊かに、TREBLEにすれば金物の響きや空気感が明るくなるというわけだ。その際も、元がニュートラルでチューニング変更の効き具合も適度なので全体のバランスは十分にキープされ、どのチューニングもやり過ぎにならず実用的。パーツ交換のしやすさと合わせて「実際使える」チューニング機構だ。これで実売2.2万円前後というから驚きだ。

同社は他にも、ダイナミックとセラミックピエゾのハイブリッドドライバー構成モデルなど、強力なラインアップを展開。たとえばニューモデル「Topaz」は、ダイナミック+ピエゾ構成でありつつ1.2万円前後とより手頃な価格も実現。こちらはベースをしっかりプッシュした太いサウンドが持ち味だ。Autumnと並べて体感すると特に、このブランドの技術と音作りの幅を実感できる。

群雄割拠の中国新鋭ブランドの中であって、そこに埋もれない存在感を見せはじめたBQEYZ。そのポテンシャルをいち早くお試しあれ。

### こちらも個性派!

New!

## ピエゾ型とダイナミック型を 同軸に配置したハイCP機



## カナル型イヤホン BQEYZ Topaz

¥OPEN ▶投票 No.000  
2022年9月中旬発売予定

9層構造の圧電(ピエゾ)セラミック振動板をトウイーターに採用。ダイナミック型には13mm径の液晶ポリマー振動板とするなど、こちらも個性的なハイブリッドイヤホン。